

金属鉱業における死亡災害事例（1999-2021年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
2004	10	11 ～ 12	一人で、排水槽の浚渫作業のため中に入りストレーナー（ろ過器）の泥を取り除く作業をしていたところ、槽内にある仕切り壁（高さ2m）を乗り越えてきた泥に埋まった。	719	10	100 ～ 299
2000	10	22 ～ 23	鉱山の坑道内において掘削のための積込・穿孔・発破作業中、崩れた岩塊（重量約1.3t）の下敷になった。	711	5	100 ～ 299
2000	9	11 ～ 12	鉱山の保安係員が坑内巡視中に行方不明となり、0M坑3号旧採掘場11番漏斗付近で発見された。（20－30M間の人道切上付近で0M坑まで墜落したものと推定される。）	371	1	10 ～ 29
2000	6	15 ～ 16	坑内冷却のためのファンなどの設置用坑道の補修作業が完了したことを確認するため、現場巡視に出かけ、熱中症で死亡した。	715	11	100 ～ 299

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_30.htmlに戻る。